



困った行動の直後の対応



行動の**直後**の対応は、主に次の3つの方法に分類できます。

- ① 強化子を与えず、消去する。
- ② 弱化子を与えて、弱化する。
- ③ して良い行動を教示し、できたら強化子を与えて強化する。

①について

不適切な行動（言葉を含む）には「無視」「スルー」して取り合わず、行動を無意味化することによって消去する方法です。注意引き行動や試し行動によく用いられます。これまでと異なる対応に困惑した子は、多くの場合、いつもの反応を引き出そうと、挑発的に行動をエスカレートさせるようになります。それでも無視を貫くと、やがて子どもは諦め、その行動をしなくなります。ただし、そのように進まず、放っておけないほど行動が激化する恐れもあることを理解しておく必要があります。成功の確率を上げるには、**消去したい行動は欲張らずに絞ること、無視しつつも観察は怠らず、途中で少しでも適切な行動が現れたら無視は解除し、表情豊かに褒めたり認めたりして強化することが大切です。**

②について

最も分かりやすいのは、「注意する」「叱る」あるいは何らかの「ペナルティを課す」ことにより、行動が低減するというものです。ただ、大抵の子には通用しても、対象児には通じなかったり、その場限りの一時的な効果に留まってすぐに繰り返されたりするのでは、叱責が弱化子となっているとは言えません。また、いくら叱っても子どもにスルーされると、教師の叱責はエスカレートしやすい（上記①のように）ことに注意が必要です。

一方で、子どもにとって大事なもの（こと）を、不適切な行動が現れたら一時的に取り上げるという方法もあります。例えば、「タブレットは先生が預かり」「終わらない人は休み時間も続ける（休み時間を取り上げる）」などです。この方法も、反発心から教師との関係にひびが入って、かえって指導しづらくなるなどのリスクはあります。**基本的な人間関係の上に、教師は穏やかな表情・口調で淡々と対応することが求められます。**

ちょっと×E 上段の「ペナルティを課す」と「一時的に取り上げる」との違いは、与えるのか（プラスするのか）、取り除くのか（マイナスするのか）の違いであり、前者の場合は、**正の強化子／正の弱化子**、後者の場合は、**負の強化子／負の弱化子** と言います。

③について

例えば、授業中に勝手に教室から出ようとするAさん呼び、「教室にいるのが苦しくなったら、先生に『廊下でリセットしたいです。』と言いにお願い。そしたら○分間の外出許可証を渡すからね。誰か先生に聞かれたら、これを見せれば大丈夫。1回練習しよう。」（言えたら）「そう、いいね。じゃあこれが外出許可証。それとタイマー。○分経つとアラームがなるから戻るんだよ。」（渡す）「戻ったら先生に返してね。」と言って聞かせ、**部分的にでもできたら大いに褒め（淡々としたやり取りを望む子もいます）、できなければ「残念。次は期待しているよ。」**と言って強化を図ります。

うまくできたときに、シール等を強化子として与える方法もよく用いられますが、モチベーションを保つためには、「**いくつ貯まったら、さらにこんな特典がある**」といった仕組み（**バックアップ強化子**と言う）を、保護者とも連携して工夫したいものです。

担当 学校生活適応支援アドバイザー（飯山・大瀧）
TEL 639-4392